

第3回 埼玉県消防学校再整備基本構想策定委員会 次第

日時：令和7年5月21日（水）
15時00分～
場所：オンライン会議（T e a m s）

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
- 4 次回の開催日程について
- 5 閉会

埼玉県消防学校再整備基本構想策定委員会 委員一覧

区分	氏名	所属
学識経験者	原田 久	立教大学法学部学部長
	小林 恭一	危険物保安技術協会特別顧問（元東京理科大学教授）
消防教育機関	日高 真実	総務省消防庁消防大学校副校長
常備消防	島田 智弘	さいたま市消防局長
消防団	森田 耕一	県消防協会会長
女性消防吏員	熊谷 智子	日本消防設備安全センター上席調査役 （元川崎市中原消防署署長）
	鈴木 亜弥子	川口市消防局理事兼南消防署長
D X	竹本 吉利	一般社団法人独立蓄積型データ放送研究開発機構
県	鶴見 恒	県危機管理防災部副部長

（敬称略）

第1回委員会のまとめ

再整備の方向性に関する意見等

実災害に対応した高度な技術の習得

- ・ 風水害や土砂災害などの大規模災害に対応するための高度な技術を習得することは当然に必要である。
- ・ そのためには、実災害に対応した訓練が可能な訓練施設が必要である。
- ・ 火災件数の減少に伴い現場経験が減っているため、OJTでカバーできないものは理論化した教育が必要である。
- ・ 全国救助大会が開催できるような訓練できる施設が必要である。

ジェンダー視点に立った教育環境

- ・ 入校者数の増加が見込まれる中で、早急な対応が必要である。
- ・ プライベート空間の確保や感染症対策を考慮すると寮室の個室化は必要である。
- ・ 女性職員の増加などに流動的に対応できるような施設が必要である。
- ・ 大規模災害時における緊急消防援助隊受入れにあたっては、ジェンダー視点による配慮が必要である。
- ・ LGBTQなどどのような個性にも配慮できるような視点も必要である。

第1回委員会のまとめ

再整備の方向性に関する意見等

DXを活用した学習環境

- ・ 救急業務ではタブレットが使用されている中、消防学校でも実践に近い形での教育が必要である。
- ・ DXをスムーズに進めるには、業務の統一化、標準化が必要である。
- ・ 学習環境の充実や感染症対策などを考慮すると寮棟のWi-Fi環境の整備は必須である。
- ・ 学生に1人1台タブレットやPCの整備が必要である。
- ・ 教育訓練コンテンツの充実やデジタル化も必要である。
- ・ 学生や消防本部との連絡調整など教官の業務効率化も必要である。
- ・ ドローンを活用した消防活動など先進事例に対応した教育も必要である。

再整備場所

- ・ 現在地は、学生の掛け声等による騒音や消火訓練に伴う煙害などに対する苦情がほとんどなく、訓練が実施しやすい環境である。
- ・ 県内どこからも通勤しやすい場所は大事な視点である。
- ・ 財政的な制約や時間的な制約などを考慮すると優位性があるのは現在地である。
- ・ 現在地での建替えを前提に議論する。その場合、教育が中断しない計画が必要である。
- ・ 現在地より適切な場所があれば、県で検討することとする。
- ・ 整備する場所のハザードの浸水など災害リスクの整理が必要である。

第2回委員会のまとめ

再整備する施設の検討等に関する意見

再整備する施設の検討①

(宿舍棟)

- ・ 半個室は1つの部屋に個室部分と共有スペースがあるため、感染症発生時の対応や勉強に打ち込みたい学生にとってはデメリットになる。
- ・ チームワークを醸成するため、共有できるスペースは確保しながら、個室化という方向性もあるのではないか。

(現在の敷地)

- ・ 現在の敷地内に機能強化したい訓練施設が配置できるか留意する必要がある。
- ・ 入校者数の違いはあるが、他県で埼玉県と同規模の敷地で運営している学校があれば、埼玉県が機能強化したい訓練施設をどうカバーできているか参考にする必要がある。

(校舎棟等)

- ・ 再整備を検討しない施設している校舎棟と厚生棟が屋外訓練場に挟まれた配置になっている。
- ・ 緊急消防援助隊の受け入れ機能強化という観点からすると受け入れる部隊の数が制限され、宿营地としてもオペレーションが難しくなる。
- ・ 優先順位が高いのは訓練施設の整備であるため、校舎棟の建替えを検討しつつ、既存の校舎棟の利用も視野に入れつつ、2つの屋外訓練場をいずれ統合することも考えていく必要がある。

第2回委員会のまとめ

再整備する施設の検討等に関する意見

再整備する施設の検討②

(救急救命士養成課程)

- ・ 現在の施設である県立小児医療センターでは医師が来やすい一方、消防学校で統一的に実施できれば効率的な部分もあるため調整が必要ではないか

DXを活用した消防教育の検討

(他県の先進事例)

- ・ 学生に配布したタブレットで、学生への連絡、資料提供、出欠管理や健康管理が可能である
- ・ 学生にタブレットを配布していない学校では、学生自らのスマートフォンで健康管理など実施している
- ・ 屋外にも大型モニターを設置し、訓練の事前説明や解説等に利用している
- ・ 訓練の事前説明動画や教官が撮影した訓練中の動画を共有し、予習や復習等に活用している
- ・ 外部講師によるオンライン講義を実施している
- ・ 消防団向けの教育では座学をオンラインで配信している
- ・ 救急実習室内に駐車した救急車内にカメラを配置し、救急の手技や傷病者への声掛け等をリアルタイムで視聴できる
- ・ 他県の先進事例ではどのような効果が出ているか調査する必要がある

第2回委員会のまとめ

再整備する施設の検討等に関する意見

その他の留意事項

- ・ 教官から対面で教育を受けるメリットも踏まえる必要がある。
- ・ 消防庁が令和7年3月に改訂した緊急消防援助隊基本計画で、DXによる情報収集、整理、共有を強化するため、新たに情報統括支援隊を整備する計画を示したように情報を集約してどのように消防戦術を立てて訓練していくかも重要な観点になる。
- ・ 今後も、消防庁では令和7年1月の八潮市道路陥没事故や令和7年2月の大船渡市山林火災など直近で発生した災害を踏まえた様々な見直し等も注視する必要がある。

第2回委員会まで議論を踏まえて、以下について検討する。

①校舎棟、厚生棟の検討

②県消防長会からの要望に対する検討

①校舎棟、厚生棟の検討

建物の構造、面積等

所在地：埼玉県鴻巣市袋30

敷地面積：35,657.26㎡

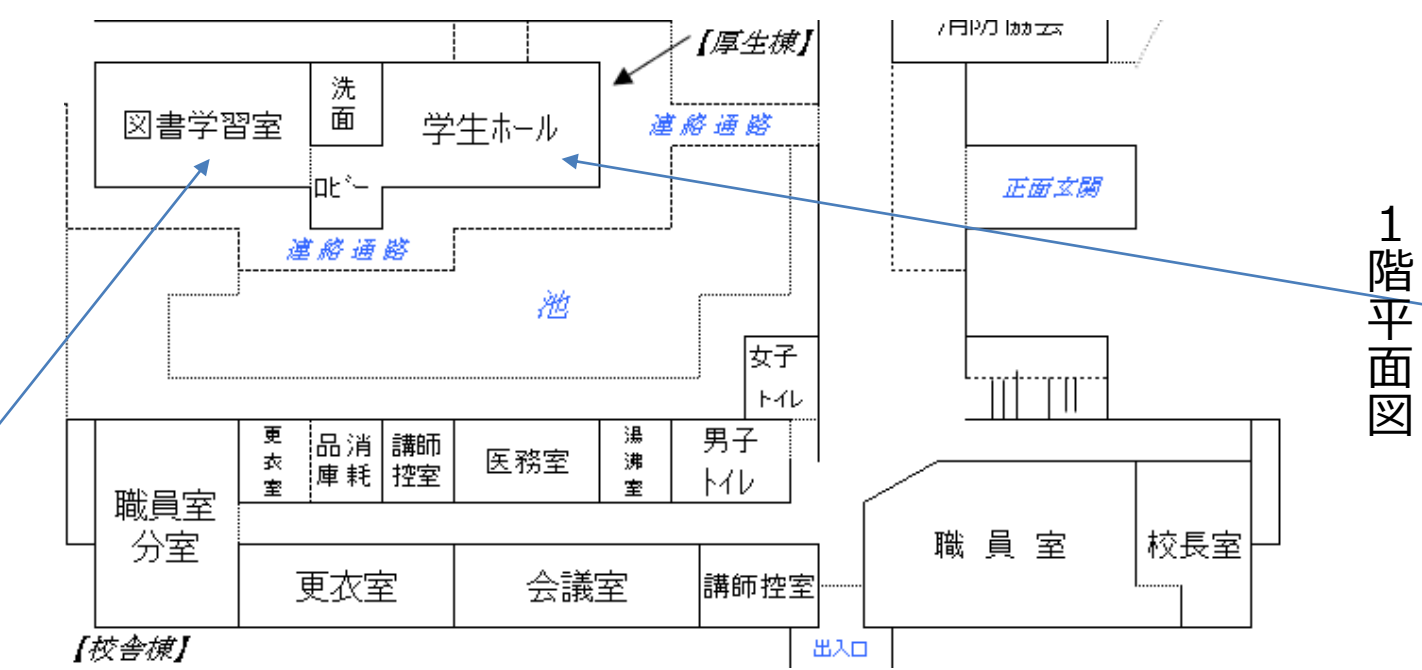
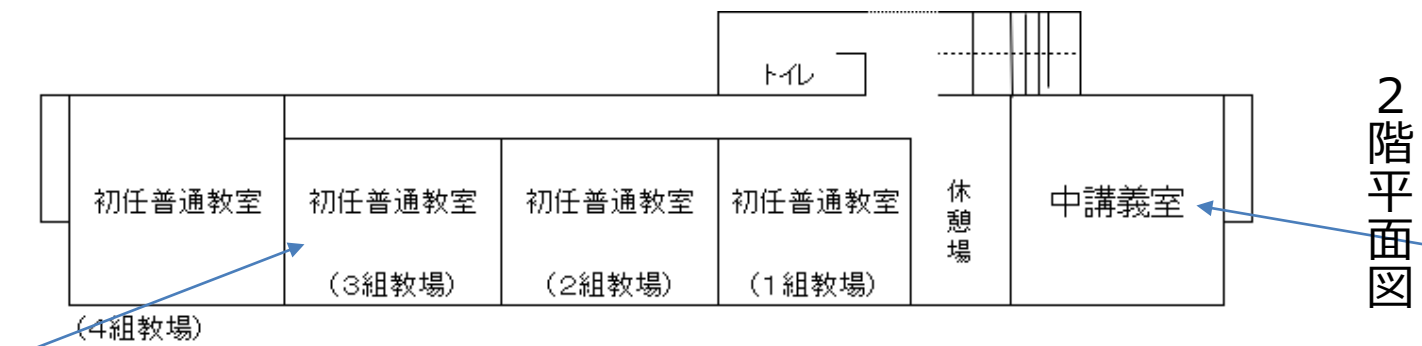
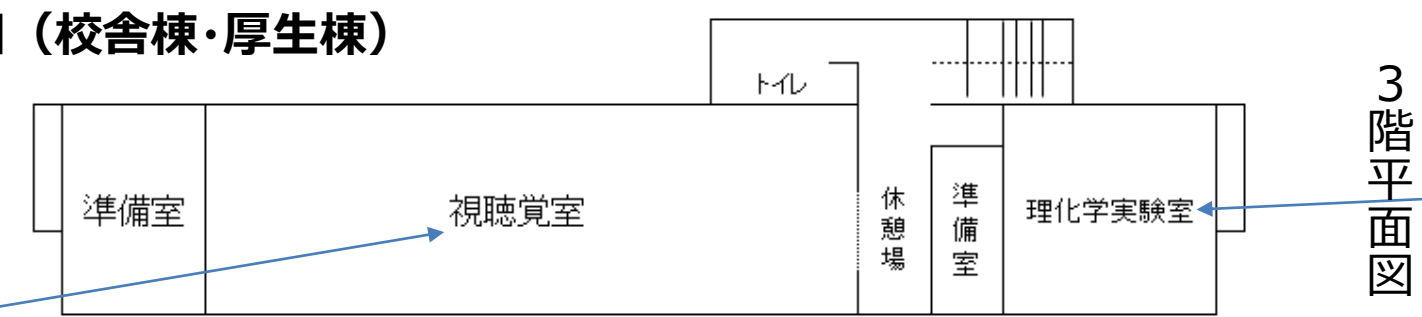
単位：㎡

建物の名称	構 造	規 模	建築面積	延面積	建設年度
校舎棟・宿舍棟 資料談話室棟 食堂棟	鉄筋コンクリート造	3 階建	2,425.38 うち校舎棟 639.96	5,484.75 うち校舎棟 1,965.79	昭和53年度
屋内訓練場	鉄骨鉄筋コンクリート造	2 階建	1,159.35	1,495.56	昭和54年度
訓 練 塔	〃	8 階建	169.13	589.43	昭和55年度
水難救助訓練場	鉄筋コンクリート造	平屋建	160.75	160.75	昭和55年度
車庫No. 1	鉄骨造	〃	322.38	322.38	昭和53年度
車庫No. 2	〃	〃	245.78	245.78	昭和51年度
洗 濯 棟	鉄骨造	〃	117.56	117.56	昭和63年度
専科教育棟	〃	2 階建	446.47	848.16	平成16年度
資機材倉庫	〃	〃	164.13	322.20	平成16年度
厚生棟	〃	平屋建	217.76	217.76	平成16年度
建物火災訓練	〃	2 階建	75.70	104.34	平成28年度
合 計			5,504.39	9,908.67	

敷地面積: 35,657.26 m^2



埼玉県消防学校の平面図（校舎棟・厚生棟）



主な部屋用途と課題（校舎棟）

階	室名	面積（㎡）	用途	課題
1階	校長室	33.2	校長執務室、行事等での来賓控室	<ul style="list-style-type: none">・多目的トイレが設置されていない。・負傷者や高齢者などに配慮したエレベーターが設置されていない。・訓練中の熱中症への対応や女性学生の増加に伴い、医務室の拡大が求められている。
	職員室	119.0	学校職員の執務室	
	職員室分室	66.6	学校職員の執務室、文書・資器材等の保管	
	講師控室 1	23.4	外部講師の控室	
	講師控室 2	11.7	外部講師の控室	
	医務室	23.4	学生体調不良者の処置	
	会議室	35.1	各種会議の実施、行事等での来賓控室	
	消耗品庫	11.7	文書、消耗品等の保管	
	湯沸室		職員の活動服等の洗濯、給湯	
	更衣室 1		男子職員の更衣ロッカー	
	更衣室 2		女子職員の更衣ロッカー、消耗品の保管	
	男子トイレ			
	女子トイレ			
2階	普通教室	79.2	クラス単位のホームルーム	<ul style="list-style-type: none">・女子トイレが設置されていない。・多目的トイレが設置されていない。・D X 環境（通信環境、大型モニター等）が整備されていない。
	普通教室	79.2	クラス単位のホームルーム	
	普通教室	79.2	クラス単位のホームルーム	
	普通教室	99.9	クラス単位のホームルーム、支援教官の会議や控室	
	中講義室	122.1	初任教育座学授業、支援教官の会議や控室	
	男子トイレ			
3階	視聴覚室	282.2	初任、消防団、民間教育座学授業	<ul style="list-style-type: none">・女子トイレが設置されていない。・多目的トイレが設置されていない。・D X 環境（通信環境、大型モニター等）が整備されていない。
	視聴覚準備室			
	理化学実験室	122.1	初任及び専科教育の授業、支援教官の控室	
	理化学準備室		薬品等の保管	
	男子トイレ			

第2回委員会で委員から、校舎棟を現在地で残すと「校舎棟と厚生棟が屋外訓練場に挟まれた配置」、「緊急消防援助隊の活動オペレーションに支障が出ないか」との懸念が示された。

一方、埼玉県庁舎・公の施設マネジメント方針では、建物の目標使用年数は80年と定めている。

このような状況を踏まえ、課題と検討方向について以下のとおり整理した。

1 DX環境 :校舎棟・厚生棟内全体でアクセス可能な通信環境の整備が必要である。

2 女子トイレ・多目的トイレ

- ・ 1階 :一部の部屋の機能を集約し、スペースを生み出して、多目的トイレの整備が必要である。
- ・ 2階、3階 :女子トイレ・多目的トイレの整備が必要である。中講義室や視聴覚室など教育スペースを縮小するのは困難であるため、増築による整備が必要である。

3 医務室

- ・ 1階 :一部の部屋の機能を集約し、スペースを生み出して、医務室の拡充が必要である。

4 エレベーター

- ・ 増築による整備が必要である。

5 その他

- ・ 解体を想定している宿舎棟にある高架水槽を含む給排水設備は新たに校舎棟用に整備する必要がある。切り替えにあたって、一定期間使用できなくなることも想定されるため、校舎棟の運用に支障が出ないように計画する必要がある。
- ・ また、校舎棟、専科教育棟と宿舎棟を結ぶ渡り廊下の設置が必要である。

→ **1～5の課題が想定されるため、学校教育の継続の視点、ライフサイクルコストの視点を踏まえた、整備計画の検討が必要である。**

また、校舎棟は敷地中央に配置されており、再整備する際には施設全体の配置に十分留意する必要がある。

②県消防長会からの要望に対する検討

埼玉県消防長会総会決議に基づく要望について（令和7年5月8日付け埼消会57号）

1 要望

埼玉県消防学校再整備における救助訓練施設の充実化について

2 内容

埼玉県消防救助技術指導会が開催可能な訓練塔の建設を要望

3 救助技術指導会について

救助技術指導会は、ロープブリッジ渡過や引揚救助などの基礎的技術を鍛えることで、消防救助隊員の技術向上と連携強化を図ることを目的とした大会である。

4 消防救助技術指導会が開催可能な訓練塔について

消防救助技術指導会が開催可能な訓練塔を建設するためには、広い敷地が必要である。



消防救助技術指導会が開催可能な訓練塔配置した場合のイメージ

敷地面積: 35,657.26 m^2



次回の開催日程について

第1回(R6年11月29日)	第2回(R7年3月21日)	第3回(今回)	第4回(R7年7月)
(1)再整備の方向性について (2)再整備の場所について	(1)第1回委員会のまとめ (2)再整備の検討について	(1)第2回委員会までのまとめ (2)再整備の検討について	(1)基本構想(案)について